第７講　否定形（単純否定・不可能・二重否定）

PART１　単純否定

★否定＝返読文字⬇「　　　」

一　単純否定

① **不・弗＝ず／（～ない）**

「　　」の否定。→直下はＶ。（＊ＡやＮを否定することもある）

（例）

不聴。〔聴かず。〕（聴かない。）

不死。〔死せず。〕（死なない。）

不知。〔　　　〕（知らない。）

不取也。〔　　　〕（取らないのである。）

＊**不**（二）シテ期年（一）ナラ、…〔期年ならずして、…〕（まる一年経たないうちに…）

② **無・莫・毋・勿＝なシ**／（～　　ない）

【存在・所有】の否定。**↓**直下はN。

Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

＊「命令（禁止）文」のとき**↓**「**なカレ**」と読む。

（「**勿**」は**禁止**を表すことが多い。）

（例）

無情。〔情け無し。〕（思いやりがない。）

無レ罪クシテ…〔罪無くして…〕（罪は無くて…）

無人処（ところ）ニ…〔　　　　〕（人がいない所に…）

＊**勿**忘。〔忘るる勿かれ。〕（忘れるな。）

勿謂。〔謂ふこと勿かれ。〕（　　　　）

③ **非・匪＝（～ニ）あらズ／（～ ない）**

【状態・内容】の否定。**→**直下はN。
Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

（例）

子(し)ハ**非**魚。〔子は　　　　　〕（あなたは　　　　　）

人ハ**非**聖人。〔　　　　　〕（　　　　　）

問一　「弗」と同じ意味の語を次の中から選べ。

ア　豈　　イ　不　　ウ　使　　エ　将　　オ　可

問二　「自疑非夢。」の正しい訓読を次の中から選べ。

ア　自(みづか)ら夢を疑ひて非ずとす。
イ　自(みづか)ら夢に非ざるかと疑ふ。
ウ　自(みづか)ら夢を疑ふを非(そし)る。
エ　自(みづか)ら疑ふを非(そし)りて夢みる。

〈Memo〉

第7講　PART1　確認問題

①「毋」と同じ意味の語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　為　　イ　令　　ウ　不　　エ　莫

②「不レ患(うれ)三人之不二己知一。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　他人が自分を認めてくれないことを心配しない。
イ　他人が自分を認めてくれることを求めはしない。
ウ　他人が自分を認めてくれないことを心配するな。
エ　他人が自分を認めてくれることは全くない。

③「非レ人弗レ語。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひとなければかたらざる。
イ　ひとにあらざればかたるなかれ。
ウ　ひとなければかたらず。
エ　ひとにあらざればかたらず。

④ 空欄にどの漢字をあてはめれば、「改めるのをためらってはいけない」という解釈になるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

□レ憚ルコトレ改ムルニ。

ア 将　イ 匪　ウ 勿　エ 可

⑤ 「己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 己の欲せずる所は、人に施さる。
イ 己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。
ウ 己の欲するなき所は、人に施すにあらず。
エ 己の欲するなき所は、人に施すこと勿し。

第7講　PART1　解答

一

①〔知らず。〕

〔取らざるなり。〕

②〔人無き処に…〕

（言ってはならない〔＝言うな〕。）

③〔子は**魚に非ず。**〕（あなたは**魚ではない。**）

〔人は聖人に非ず。〕（人は聖人ではない。）

問一　イ

問二　イ

第7講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「毋」は「なシ」と読み、「～ない」という意味を表す。同じ意味の語は、「無・莫・勿」。よって、エが正解。

② 返り点に従って読むと、「人の己を知らざるを患へず。」となる。「人の己を知らざる（＝他人が自分のことを知らない）」ことを「患へず（＝心配しない）」という文脈。よって、アが正解。

③ 「非」は「（～ニ）あらズ」と読むので、「非レ人」は「ひとにあらず」。「弗」は「ず」と読むので、「弗レ語」は「かたらず」。「人ではないので語らない」という意味。よって、エが正解。

④ 禁止（～するな・～してはいけない）を表す語は「無・莫・毋・勿」で、「なカレ」と読む。よって、ウが正解。

⑤ 否定を表す「不」は「ず」（ここでは「ざル」）と読む。「勿」は「なシ」、または禁止文で「なカレ」と読む。よって、イが正解。

〔解答〕

① エ　② ア　③ エ　④ ウ　⑤ イ